

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691000135
法人名	株式会社 天正
事業所名	イエローガーデン高瀬
所在地	富山県南砺市北市256番1
自己評価作成日	平成30年8月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年9月7日	評価結果市町村受理日	平成30年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」の弊社理念の下、利用者様が安心・安全かつ、いつも笑顔で暮らせるよう、また、ご家族様、職員やご近所の方々、行政の方など、事業所に関わるすべての人々が楽しく過ごせる居場所であるよう目指し、利用者様の意見や気持ち、お体の状態把握を取り入れながら、やりたいことが出来る環境づくりに努めています。敷地内の畑では、職員と共に野菜作りや花の世話、水やりなど、会話をしたり楽しみながら、できる範囲で育てた野菜が食卓にのぼり、収穫の喜びを共有しています。また、隣接する訪問看護ステーション『ねこのて』で毎月開催していた認知症カフェの『ねこまんまカフェ』を、今後は高瀬で行うこととし、8月には小学生のバイオリニストを招いて、近所の方々やご家族様達と楽しいひと時を過ごしました。毎年秋の恒例行事では、利用者様、ご家族、職員合同で温泉一泊旅行を実施し、皆様に大変喜ばれており、これからも地域に開かれ、事業所やグループホームについて、知っていただく機会を設け、交流していくことを積極的に続けていきます。事業所に居る2匹の猫（はな・ゆず）は利用者様職員の癒しとなり、高瀬という『家』のかけがえのない家族になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念の「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」が介護や支援そして環境支援等に反映されている。利用者権利擁護指針には具体的に「私たち職員は人が見ている時も見ていない時もいつも変わらぬ対応を行います」「利用者一人ひとりの普通の生活を守ります」「自分で決めることができるようにお手伝いします」等明記されている。さらに、詳細にわかりやすい言葉で、普通の生活実現に「一人ひとりに合った楽しみをもって生活できるようにします」「地域の住民として活動、参加の機会を持てるように支援します」「利用者とは足を止めて顔を見て話しを聴きます」「行動を決めることを押し付けず、提案し、決めたことを尊重します」等の説明には各利用者のみならず、担当する各職員の人格も尊重する姿勢が窺うことが出来る。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」の理念は全体会議において毎回職員全員で共有し、利用者様一人ひとりにあったケアの実践に努めている。	職員の目につきやすい事務所や洗面所等に、利用者が毛筆で書かれた理念が貼ってあり、何時でも確認できるようにしている。さらに月1回開催されている全体会議の資料の理念の欄が、空欄となっており各自が記入することによって再確認する流れは、理念を共有したい強い姿勢が感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々から旬の野菜を頂いたり、折り紙のボランティア、散歩中の声かけを通し交流している。また、地区公民館祭りに毎回利用者様の作品を出品、月に一度の認知症カフェにも地域住民が参加して下さっている。	認知症カフェ「ねこまんまカフェ」は、参加者の相談に応じて認知症についてや、グループホーム等について理解を深めていただく機会となっており、利用者との貴重な交流の機会の場を設けている。また若年性認知症の女性をボランティアとして受け入れており、当人の心地よい居場所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症カフェを開催して近所の方々に自由に入っていたき、グループホームの生活や認知症の方に触れていただきながら、認知症への理解を深めてもらう機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、事業所でのサービス内容や利用者様のことを話し合い、地域の情報(祭り、行事等)を交換し、当事業所でのサービスに活かせるようにしている。毎年来てくれる地区の獅子舞を、利用者様は楽しみにしている。	2か月に1回発行している「猫耳だより」に次回の会議開催日時も記載して、家族の出席をお願いし、毎回1、2名の家族が参加され、意見交換が行われている。ヒヤリハット等の報告から現状への理解を深めて頂いたり、地域の情報提供によって公民館祭りへの作品出品から当日出かけていく等の活動に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には南砺市の担当者も出席し、事業所は南砺市が主催の事業所連絡会に参加し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。市内のグループホーム等と行政担当で独自に交流会もおこなっている。	南砺市の認知症対応型生活介護事業者連絡会への参加にとどまらず、積極的に交流の機会も作って情報交換から合同研修会開催についても一緒に検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の目につくところに行動指針「コンプライアンスルール」を掲示し、入社時、会議で研修を行っている。玄関の施錠はせず、ケアの質をあげる努力をしている。必要に応じて、利用者様には鈴などを渡し、用事のある時は自由に鳴らして職員を呼んでもらうようにしている。	「尊厳を守る」理念に基づいて、全体としての日々のスケジュールはなく、のびやかな個々の暮らしが支援されている。ナースコールも設置されているが、各利用者はなじみの鈴を振って職員を呼んでいる。鈴は利用者にとって違和感のない呼び鈴であり、鈴の音は環境的にも心地よい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の目につくところに行動指針「コンプライアンスルール」を掲示し、入社時、会議で研修を行っている。また日頃から利用者様の心身状態の観察を行っている。グレーゾーン等、虐待に陥りやすい接遇についての研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列事業所で成年後見制度を利用している方がいるなど、会社全体で学ぶ機会を設けている。アドボカシーの観点からも、職員自らが意思疎通の難しい利用者様の意をも汲み取れるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時や契約時に説明を行った上で不安や要望を聞き、理解・納得できた段階で契約を交わしている。ご本人のみならず、ご家族の思いにも寄り添える事業所でありたいと考える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に積極的にコミュニケーションを図り、遠方のご家族にはSNS等で意見や要望を伺い、運営に反映させている。また運営推進会議にはご家族にも来てもらい、カフェでは利用者・ご家族が外部の来客と交流、意見交換している。	利用者との交流関係は大変良好であり、利用者は職員に話し易い環境である。職員と利用者は要望や苦情を話せる対応ができています。2か月に一回発行される「猫耳だより」によって生活風景は各家族に届けられていたため、いつでも家族から質問や要望等を聴く体制もできています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、ランチミーティング(会社幹部、系列事業所職員が参加)を行っている。話しやすい場づくりをし、全体で良くなるための話し合いを行い運営に反映している。食事や、少人数での一方的でない形態が職員に好評である。	ランチミーティングは、ホーム長手作りの昼食を食べながら、和やかな雰囲気の中から職員が発言しやすい状況が準備されている。現場職員から面会時の和やかな家族写真撮影などの具体的案が提案され、家族写真は利用者にも家族にも喜んでいただいている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、個々の能力に応じた待遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じ、事業所内外で研修の機会を設けている。資格取得のための勤務調整や補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる事業所連絡会に参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子を観察し、不安そうな表情や要望があれば傾聴し少しでも安心して生活出来るような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に家族に意見・要望を聞き、関係づくりに努めている。入居当初は面会が頻回であることが多いので、焦らず、かつ早い時期に信頼関係を築けるよう意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時の想いやケアマネージャーからの情報をもとに必要なケアが行えるように取り組んでいる。ご家族の心境や経済的な事情、ご本人の状態等で要望も様々であり、他のサービス利用も含め、ご本人・ご家族の最善の道を探っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの家事を一緒にしたり、昔のことを語り部のように聴かせていただいたり、人生の大先輩として、沢山のことを教わりながら共に生活させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、美容院など家族の協力を仰ぎながら共に支えていけるよう関係を築いている。特に、受診については、必要に応じて早めの対応をしていただき、また医師からの指示なども的確に伝えてくださり、ケアするうえでとても助かっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人が訪ねてこられたり、お祭りや墓参りなどの習慣を継続出来るようにご家族に協力してもらいながら支援に努めている。カフェなどで訪ねやすい環境をつくっている。面会時、ご家族等との写真を撮って印刷し、喜ばれている。	公民館祭りへの出品、また参加等で近隣の住民と交流を深めている。一方、施設が企画した認知症カフェに外部から参加された方々とは、歓迎する立場で実施され、面会時に撮った家族写真は遠方の家族に限らず絆を深める機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、フロア関係なく関わり合い、支え合い、楽しむ事ができるよう努めている。里芋の蔓の皮むきや洗濯物たたみなど、物静かな利用者様も作業をしながら話が楽しく弾むよう職員が介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、ケアマネジャーや家族との関係性を大切に、必要があれば相談や支援に努めている。毎月認知症カフェ「ねこまんまカフェ」で、ホームを訪れやすい機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の今までの生活習慣やこだわりなどの情報を収集して、個別ケアに活かすよう取り組んでいる。また、日常の関わりや会話の中から要望や希望の把握に努めている。ホームの備品の収集癖のある方も、想いを尊重して許容している。	日々の関わりの中から各利用者の生活習慣や癖等を把握している。職員は本人の心の安定を考えながら、これまでの生活が継続できるように支援している。支援には他の利用者には負担のないように関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のアセスメントを通して、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしが、今後も継続できるよう把握に努めている。面会等の機会をとらえて、ご家族ともご本人の好みのものや想い、生活歴等、聞かせていただくよう心がけている。 □		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェック、申し送りを行い、日中の関わりの中で変化がないか等、状態の把握に努めている。また入浴時に身体の状態を確認している。表情や体調のちょっとした変化を見逃さないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の要望、ニーズに沿った介護計画を作成できるよう努め、定期的にカンファレンスを行い介護計画を見直す機会を作っている。問えば「特に不満はない」とは言われるが、今後カンファレンスにご家族の参加をお願いしたい。	利用者との関係は良好であり、利用者は職員に要望や苦情を話し易い環境である。2か月に一回発行される「猫耳だより」によって利用者の生活状況が家族に届けられ、家族はいつでも質問や要望が発信でき、職員はその内容を次回の介護計画に反映できる状況となっている。	利用者の相談事や要望はいつでも傾聴でき、家族からの要望や困りごと等も聴き、その都度検討しているが、その記録がない状況なので、貴重な本人や家族の要望等をその都度記録する流れの検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを個人記録に記入し、職員間で共有して申し送りを実践するようにしている。特に、身体的なケアや処置が必要な場合は、写真と文で説明した回覧板を全職員に回して、徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズや家族の状況により、買い物、病院搬送、日常生活など柔軟に対応出来るように取り組んでいる。ご本人が希望し、ご家族の承諾が得られた場合は、筋トレや歩行訓練を無理のない範囲で行い、利用者様大変喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長や公民館長、民生委員などにお声掛けいただき、利用者様たちが書道や手芸作品など取り組みたいものを意欲的に作品に仕上げ、地元公民館の公民館祭りに出品し、利用者様と見物に行くなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の要望するかかりつけ医を選択してもらい、協力医とは月1回の往診や24時間連絡体制をとり、適切な医療がうけられるよう支援している。往診日前には利用者様方の状態を事前に詳しく連絡するなど連携を密にしている。	入所後に主治医はそのまま継続する場合と、改めて協力医に変更する場合がある。協力医の往診には事前に状態を報告して往診に活かせるように迅速な連携をとっている。かかりつけ医への定期受診に同行する家族には、毎日の健康チェック表から現状を説明して、家族が安心して同行して、有効な受診となるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が、健康状態の把握や利用者、職員からの報告、相談を受け、適切な医療、看護がうけられるよう支援している。変形した爪を切って貰ったり判断に迷う時に適切な指示を貰うなど密接に関わって貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や家族と連絡体制を密にとり、情報交換を行いながら、早期に入退院ができるよう努めている。入院・退院時には介護サマリー、看護サマリーなどを活用して互いの情報提供により、より良い介護・看護に努めている。合同研修や業務を通じて関係作りもなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から信頼関係を構築するよう努め、重度化した場合のご家族の願いを理解しつつ方針を作成し、今後、ご本人やご家族が看取りを希望される場合は早い段階から医師、看護師とともに話し合いを行い、希望する最期を迎えることができるようにチームで取り組んでいる。	入所時に重度化時及び終末期の指針を説明し、了解を得て入所されている。これまで看取り介護の実績はないが、医師・看護師・介護職員がチームとして看取り介護の支援について、面会に出来ない家族にも状態の変化を頻回に報告するなどして信頼関係の構築に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議の中で話し合ったり、研修を行い緊急時に対応出来るように意識を高めている。何か突発的なことが起きても冷静に対処できるよう、連絡・指示体制を整え、取り乱すことなく平常心を保つ大切さを繰り返し伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施。地域の区長さんにも協力を要請し、一緒に訓練ができる協力体制を築いている。また、事業所内でも全職員が通報や避難など速やかに行えるよう訓練している。災害時、当事業所が福祉避難所的役割を担うことも想定される。	災害時の備蓄食品は利用者職員分が1日分であるが準備されている。1日分であるのは系列事業所の協力体制が整っている為。年2回実施されている自衛消防訓練に地域の住民にも参加していただき、消火や避難方法等について理解を深めていただく機会にしたいと検討中である。	年2回の訓練中一回は消防本部の協力を得ているが一回は自衛消防団のみの状況から、今後は近隣住民の方々に施設における避難方法や備蓄品の活用等に理解していただくために火災訓練への参加を促していく取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性や人生の歴史を尊重した声かけや関わりができるよう職員間で話し合いを行っている。田舎のよさ、親しさが、ややもすると失礼にならないか、注意を払っている。	介護してやっている等、上から目線の介護にならないように、また方言が持つ親しみを大事にしながら、失礼にならないように配慮している。優しい声や笑顔で温かい交流が実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ方でも、日や体調によって気持ちも変化する。その都度、自己選択、自己決定、自分らしさをもった生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間、日中の活動内容など、一人ひとりのペースに合わせて、本人の希望に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、爪切り、着替え時等は働きかけ、訪問カットの際は希望通りのカットを行ってもらっている。変形した爪も、毎週のナース訪問時に切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いたり、近所の方からいただいたものや畑でとれた旬の野菜を使い、それぞれの調理方法の話題で盛り上がり、利用者、職員とともに楽しんでいる。盛り付けや片付けも会話をしながら一緒に行っている。好き嫌いや配慮している。	「四季を通して食卓から果物を欠かしたことがないですね」と語る職員。閑静な田園に囲まれた地域性から職員手作りの果物や野菜が毎日届く状況。スイカ、ブドウ、イチジク、柿に栗そして梨等々、料理も「赤ズキ」「ひじきの煮物」等郷土料理も並び、自宅の食卓を思い出す食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排尿の状態、気温などを観察・記録し、その方にあつた食事や水分、おやつを提供をしている。ごはんや味噌汁しか食べない方には、汁の具を質・量ともに増やすなどして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけを行い、支援が必要な方には職員が一部介助し支援している。往診歯科医のアドバイスで、極力入れ歯専用ブラシを使用したい旨、ご家族に了解を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や排泄習慣により、声かけを行っている。できるだけトイレで排泄出来るよう支援している。また、リハビリパンツから布パンツへの移行も支援している。少しでも排泄の失敗体験を減らせるよう努めている。	排泄ケアにも理念の「尊厳を守る」が実践され、失禁時においても利用者のプライドを損ねないように「雨でズボンの裾が濡れてしまいましたね」「私も着替えるところ」等優しく声をかけて、さりげなく介護が実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、主治医に相談し、便秘予防に努めている。また、個々の状態に合わせ、水分多めの食事や食物繊維、牛乳やヨーグルト、腹部マッサージや運動など薬以外の摂取で便秘の予防に取り組んでいる。車椅子の方も自らの足で歩くことは、例え少しの距離であれ、大きな喜びとなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の曜日、時間は決まっているが、個々の状態に合わせて時間を調整し、出来るだけ希望に沿った入浴ができるように支援している。外出や受診の際は、予定を融通して直近の日に入浴していただいている。	安全、快適を最優先に週2回の入浴が確保されている。予定外の受診や外出前には入浴してさわやかに出かけられるように、入浴の順番の変更等は利用者同志の優しい配慮に支えられている。また地元特産のゆずをふんだんに湯舟に浮かべて季節感をも味わう入浴も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣によってだが、眠りにつきやすいように最小限の灯りにしたり、眠れない場合は無理に横になってもらおうとはせず、温かい飲み物を提供したり、話をして落ち着いていただいている。空調などの環境にも配慮している。日中の関わり、過ごし方も重要と考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃より病歴、薬剤情報の把握、確認を行い、体調の変化があった場合には、主治医と連携をとり適切な服薬ができるよう支援している。必要に応じて、声掛けや、とろみをつけるなど、飲みやすい工夫も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、その方との関わりで、出来ることを増やし、気分転換、やりがい、得意なことの継続など日々が楽しめるよう支援している。書道や手芸も楽しんでいただき、家事の得意な方には、積極的にお手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ、外出など家族の協力を得ながら、可能な限り出かけられるよう支援している。気候の穏やかな時期に、地元の「椿まつり」見物や桜の並木道をドライブするなどしている。	恒例の温泉一泊旅行が継続している。利用者、家族そして職員と一緒に同じ料理を食べて、お風呂にも一緒に入って、親睦を深めている。またこの温泉一泊旅行は同じ系列の事業所とも合同の企画にて、様々な出会いがあり情報交換の場としても収穫が期待されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に合わせ、出来る方には自分で小遣いをもって買い物ができるよう支援している。ただ、金銭の管理は事業所側に頼みたいと希望されるご家族が多いのも事実である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話出来るようになっておりご本人が安心できるようになっている。夜間や早朝、平日の勤務中と思われる時間の要望には、ご家族の負担にならない時間にさせていただきよう、お願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には必要以上の飾りはせず、不快や混乱を招かないようにしている。空調や気温、湿度等で快適に過ごせるように配慮している。こまめな換気を行い匂いなど不快感をなくすよう努めている。冷房の効きすぎや乾燥し過ぎのないよう注意している。	渋い家具調の家具や利用者が作った裂き織の作品等によってシンプルな落ち着いた空間となっている。各利用者の表札はしっかりと大きく書かれ、どこからでも見える場所にかかっていた。窓際のソファには飼い猫がのんびり横になって、優しい高齢者の住まいとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気のあった利用者とは話したり、ゆっくりテレビを見るなど家庭的な雰囲気をつくり、それぞれが居心地良く過ごせるような空間づくりをしている。一日の流れがおおまかなので、いつでも好きな時に自室に戻ってくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っておられたものや、馴染みのもの、飾っていたものを持ち込んでいただき、安心して居心地よく過ごせるようにしている。花が好きな方は、自室に生花を飾り、好きな歌手のポスターを貼るなど、自分好みの居心地の良い部屋にしている。	居室は利用者の好みで、すっきりと整理整頓されていたり、所せましと生花や造花が飾られていたり、猫がベッドにのんびりと寝そべっていたり等、利用者の個性的な暮らしが支援されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状況により、ベッドや家具の配置を工夫し、安全に自立した生活ができるよう支援を行っている。長い廊下や手すりを利用して、自発的に歩行や屈伸の練習をしている方も何人もおられる。		

2 目標達成計画

事業所名 イエローガーデン高瀬

作成日：平成 30年 10月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者の相談事や要望はいつでも傾聴でき、家族からの要望や困りごと等も聴き、その都度検討しているが、その記録がない状況なので、本人や家族の要望等をその都度記録する流れの検討が課題と考える。	面会時や電話、SNSなどでのやりとりを、こまめに記録し、カンファレンスの場や、ケアプラン作成の際の参考材料としても活用していく。	利用者様一人ひとりの個人ノートを用意し、利用者様やご家族とのやり取りがあった際には、その都度どのスタッフも手軽に書き込み、記録の流れが整うよう努める。	12ヶ月
2	35	年2回の避難訓練を行っているが、今後は近隣住民の方々に、施設における避難方法や備蓄品の活用等について理解を深めていただくために、火災訓練への参加を促していく必要があると考える。	災害発生の際、利用者様たちの避難・救出・捜索などの協力を求めたり、また当事業所が福祉避難所的役割を果たすことも想定されることから、欠かすことができない近隣住民との密な関係づくりを構築していく。	地区の火災訓練の際、当事業所を火元と想定した訓練計画を採用して頂くよう積極的に働きかけるなどし、また、訓練終了後には災害備蓄品を活用した試食会を行うなど、地域住民が参加しやすい企画を考え、実施していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。